焦　点

平成30年の新春を迎えて

一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会　会長
鈴木　洋　SUZUKI, Hiroshi
（HOYA 株式会社　取締役 代表執行役 最高経営責任者）

平成 30 年の年頭にあたり，謹んで新春のお慶びを申し上げます。

当協会の運営および活動に関しまして，平素より多大な御支援，御協力を賜り厚く御礼申し上げます。また，昨年の創立30周年記念行事には大勢の方々のお力添えを賜り盛大に執り行うことができました。改めてお礼を申し上げます。当協会は今後も新しい視点で事業活動に取り組んでまいりますが，人材育成技術講座では時代を反映した新企画の準備が進んでおります。ご期待いただければと思います。

さて，昨年一年を振り返りますと，アジア周辺諸国の軍備拡張の動きや中東の問題など国際社会に多くの難題を抱え為政者はそれらに多くのエネルギーを費やさなければならなかった年のように思います。一方ビジネスや社会を顧みますと，AI，EV，自動運転，量子コンピュータなど新聞テレビ等で話題にならない日はなく，我が国は技術立国としてはたして時代の流れに遅れを取っていないかと問題視された年でもありました。当協会創立 30 周年記念時にこれまでの急激な進歩よりももっと激しい変革が起こるであろうと予測しましたが，昨年一年を振り返ってもすでにその萌芽が見て取れます。中でも急速に身近になってきた AI に特別な意味合いを感ぜずにはいられません。思うに我々人類は石器時代から数多くの道具を手にしてきました。そして，過去も現在も社会はそれなしでは成り立たないくらいそれら道具に依存してきたといえます。AI という道具もやがては人間に代わって考え判断する道具に進化していき，それなしでは考えられないくらいに社会は依存していくことでしょう。この AI という道具を人類が手に入れたということは何を意味するのでしょうか。為政者は難題解決にエネルギーを費やさずに済むようになるのでしょうか。

今から半世紀前に人工知能を有するロボットが主役の日本で初めての国産テレビアニメが放映されました。作者は多くの SF 作品を残しましたが，それらの描く未来はみな決して明るい未来ではなかったように記憶します。高度文明の持ち得た道具は何もかも解決してくれるものでは決してない。人類（ロボットも）は自ら苦悶し判断して解決しなければならないということを語っていたように思えます。AI が自ら苦悶するくらいに進化するまでには多くの月日を要するように思いますが，いずれにしても道具に依存するあまり道を見失うことが大きな問題につながっていくように感じます。人間社会は数多くの道具に依存しているということを素直に顧みることも必要なのではと思います。

今年の干支は戌年ですが，戌年の意味は勤勉と努力とあります。勤勉と努力がすばらしい成果を生み出すことは間違いありませんし，同時に勤勉と努力が歩むべき道を正しく導いてくれるものと信じます。

最後になりましたが，平成 30 年が皆様にとって素晴らしい年になりますように，心よりお祈り申し上げますとともに，今後とも当協会への御支援，御協力をお願いしまして私の挨拶とさせていただきます。